

# アトサヌプリ

## 1 概況

上空からの観測では、噴気の状態や火口の状況に変化はなく、火山活動は静穏な状態です。

## 2 上空からの観測結果

5日に北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しました。

溶岩ドームの周辺では、高さ20～30m程度まで立ち上る白色の噴気が認められました。

2006年7月に実施した調査観測時の状況と比較し特に変化は認められませんでした。

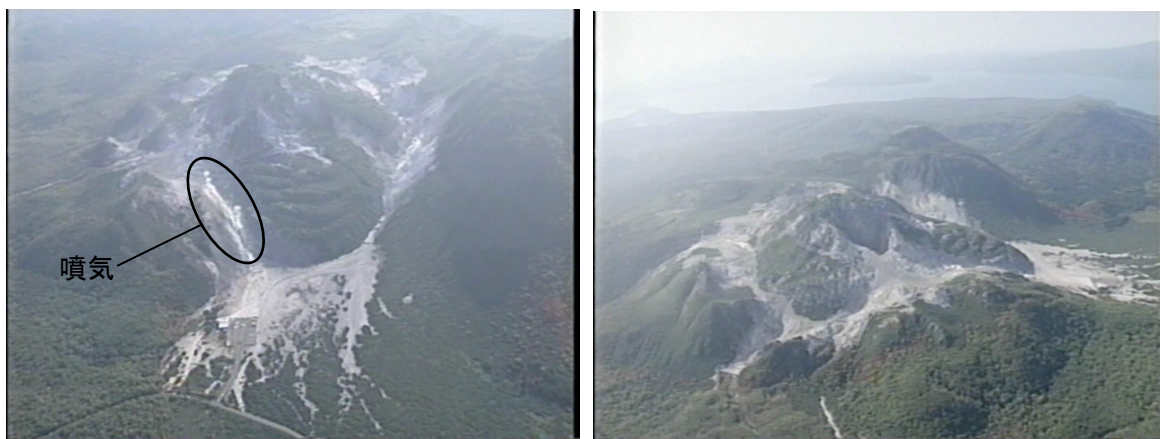


図1 アトサヌプリ（左：北側上空から撮影 右：東側上空から撮影 2006年10月5日 北海道開発局提供）

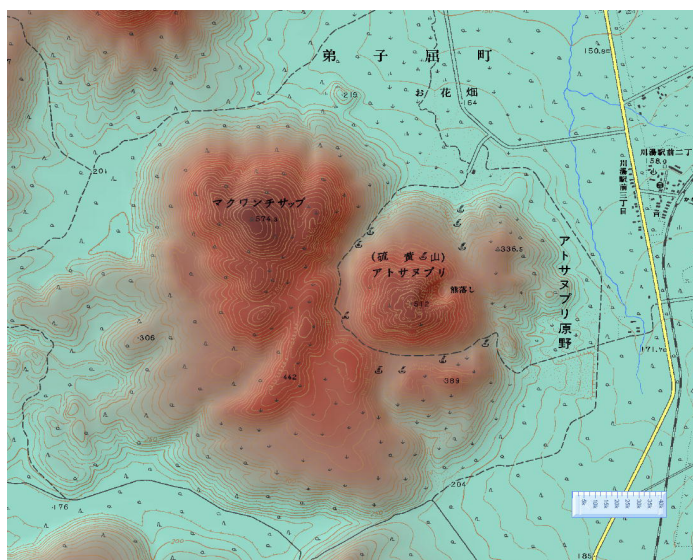


図2 アトサヌプリ 火口周辺図

参考：

アトサヌプリは、屈斜路カルデラ（東西 26km、南北 20km）の中央部に位置するカルデラ（アトサヌプリカルデラ、直径約 4km）と、カルデラ形成後にその内外に噴出した 10 個の溶岩ドーム群です。噴出物の調査により数百年前に最後の噴火活動があり、新期溶岩円頂丘山頂部に「熊落し火口」と呼ばれる直径約 150mの火口が形成されており、現在も噴気活動が続いています。